ずいそう

還暦過ぎてからの，ブラジル駐在体験記

松　本　典　久

私は，1982年にコマツに入社し，大型ブルドーザの開発に携わってきました。コマツへの入社動機は，大きな建設機械を設計してみたいといった動機でした。現在，40年の勤務を通して，希望どおりに職歴を重ねることができました。とても幸せなことです。北米や豪州，そして中近東など多くの出張もありましたが，合計3回の海外転勤も経験できました。それぞれに深い思い出がありますが，最後の駐在地であったブラジルのサンパウロについてお話します。2019年の赴任時は59歳，定年の前年でしたが3年の勤務でもあるので，迷わずに承諾しました。現在は今年の4月に帰国して古巣の大阪工場内にあるブルドーザの設計室で勤務しています。3回とも海外赴任は39歳，49歳，59歳といったなぜか“9”が付く年齢で始まり，大げさですが人生の節目みたいなものが10年おきに訪れました。ところで次の“9”すなわち69歳で何が起こるのか楽しみにしています。ブラジルで勤務する現地法人（生産工場）はスザノ市というサンパウロから1時間半ほど離れておりましたが，住まいはサンパウロ市のパウリスタと呼ばれる中心部でした。サンパウロ市は1,200万人が住む南半球最大の都市で，日本との時差は12時間。まさに地球の反対側ですので，大阪の自宅から出発してサンパウロのアパートにたどり着くまで，おおよそ30時間かかりました。ところで，今回の駐在はCOVIDという厄介な問題がありました。2020年の6月から8月までの3か月間はCOVIDの影響で一時帰国しました。大阪の自宅からリモート勤務となりましたが，現地の方々の協力もあり時差勤務を乗り切ることができました。日本のニュースでも大きく取り上げられていたように，ブラジルではウイルスが猛威をふるい，最大で一日で3,000人の死者数が報告される時期もありました。マスク着用の習慣もなく，抱き合って挨拶するのが普通ですので感染速度も速い。私も知っている方が数人亡くなりました。暗い思い出はさておき，休日の話。日本人駐在員といえば，休日はゴルフですので最初は付き合っておりましたが，3年の駐在期間を楽しみたいので，30年来の趣味である無線で飛ぶ模型飛行機に没頭していました。郊外に牧場の一画を飛行場にしたクラブがあったので，毎週足しげく通っていました。趣味を通してですが，多くの方と知り合う機会を得ました。非常にレア

写真―1　サンパウロの日曜歩行者天国とアパートからの夜景

写真―2　模型飛行機専用の飛行場とクラブ

写真―3　趣味の模型飛行機と孫（国内撮影）

な趣味ですが，無邪気な大人が多く共通のオタク会話が通じるので，すぐに仲良くなれます。ブラジルはポルトガル語中心で，ほとんど英語は通じませんが，片言の英語や，グーグルで何とかコミュニケーションがとれました。多種多様な方々と知り合う機会を持てました。助言も含めて生活面でも助けてもらいました。

参考にならないと思いますが，以下に私の感じたブラジルについて数点述べます。あくまで私の印象ですので，事実と異なると感じる方もおられると思いますが，ご容赦ください。

(1) 勤勉

ラテン系だから楽天家でマイペースといった先入観は全く当てはまりません。ものすごく勤勉で生真面目です。黙々と仕事をします。いわれたことはまともに受けています。比喩した言い方や，冗談を交えた言い方など厳禁です。日本人が，やってしまうのがたとえ話。これは理解してもらえずに混乱を招くだけです。思わぬ誤解を招いて後始末に大変な目にあいます。あくまで直接的にわかりやすく。工場の幹部は英語を話しますが，私たちもブラジル人も英語は母国語ではないので，しっかりとゆっくりと話します。お客様のところに行く出張も多かったのですが，つくづく言葉の大切さを感じました。私はあわて者なので，話を聞いて２秒ほど沈黙してから答えるようにしました。

(2) 宵越しの金は持たない

貯金して物を買うとか，必要なものを買わずに我慢するといったことはしません。買い物に行くと棚に値札がありますが，30 回払いの月賦金額と一括払いの金額が両方記載されています。かなり金利の高いローンですが，皆さん迷わずに買ってしまいます。何も考えていないように見えるのですが，貨幣に関する信用度が違うためです。私の駐在中の物価は落ち着いていましたが過去にハイパーインフレを数回体験しているので，お金を持っていても意味がなく。金利固定されたローンであれば，むしろすぐに買ったほうが安いわけです。スーパーも同じ，給料もらうと１か月備蓄できるものは一気に買います。それほどにお金を使って明日は大丈夫かと心配しますが，友達と家族がセーフティーネットであるのでお互い様だそうです。

(3) 学歴社会

そうでないよと言われる方も多いかもしれませんが，日本では能力に応じて仕事の内容が高度化して昇進もします。しかし，ブラジルでは仕事の内容が明確にされていて，業務によっては大学の卒業資格がいります。優秀な方が多いのですが，大学を出ていないのでキャリアを伸ばせない。そこで，夜学で働きながら大学に行く方も多い。もちろんローンを組んで学費を払います。

(4) “結婚しない”けど“子沢山”

非常に情熱的なカップルが多いのですが，結婚しません。結婚時には契約を交わし，一般的に女性は保護されているそうです。場合によって，男性は離婚で全財産を失うこともあるようで，一緒に暮らしながら結婚はしないカップルが多い。結婚しないままですが，子供は生まれるので，もともと連れてきた前パートナーとの子供も加わって大家族です。細かな話は抜きにして，楽しそうに暮らしています。

(5) 底抜けに親切

皆さん，とにかく親切でおせっかいです。よく人を観察しているなと，感心することもあります。困った人を見るとほっておけない。地下鉄をよく利用していましたが，路線図を眺めているだけでも，困ったことはないかと聞いてきます。私も日本で外国人に親切にしないといけなかったと反省しきり。

(6) 底抜けに危険

どのような高級住宅地でも油断禁物。あれほどに人の好いブラジル人がなぜ？と思うほど危ない。未成年者への刑罰が甘いので悪い大人が子供にピストルを与えて，町中に狩りに放つようです。例えば，ティーンエイジャーが二人乗りでバイクに乗って，こちらに向かってくると高い確率で危険状態です。もちろん危険地域もあります。麻薬の取引地域やファベイラと呼ばれる貧民街。みなさんも見たことがあるかもしれないギャングの映画と同じです。日本の YouTuber がファベイラに入り込んで動画をアップする人がいますが，本当に危険。その地域に入るどころか，顔を撮影している段階で命知らず。レンタカーのナビに従って知らずにファベイラに迷い込んでしまい，命を落とす観光客もいます。幸い私は無事でした。もちろん危険地域には近づかない，地下鉄の路線は限定的，夜７時を過ぎると歩いて外にでない。現地の方のアドバイスによりますと，いやな空気を感じたら，タクシー拾って逃げ去るか，商店に飛び込む。不幸にして強盗に会えば，強盗に対して敬意と理解をしめす。これは難しそうですが，財布やスマホを取り出して“どうぞ”といった気持ちで手渡しする。すぐに撃ってきますので，ちょっ

とした事で命を失います。COVID が沈静化した現在，強盗が増えてむしろ殺人件数が増えて危険だと聞きます。極端な貧富差と麻薬が原因と思われます。

(7) 事務処理

仕事上の手続きや特に輸入や国内外輸送に関することは，気の遠くなるような非効率な手作業が必要です。左派の時代が長く続き，仕事の権利を保障するあまり，効率を失ったのでしょう。身近なところでは，ホテルや飛行機のチェックイン。別の仕事をやっているのかな？と思うぐらい，時間がかかります。

最後に，私が感じることは，日本で生まれて日本で生活できていることは大きなボーナスです。個人が安全の確保に大きなコストをかけなくても済む。時間帯にかかわらず，外を歩いて移動できる。物質面でも，最大都市のサンパウロのショッピングモールに行っても日本の地方都市にあるモールの物量と価格に到底かなわない。そして街がきれい。通りにゴミ箱がないのにゴミ一つ落ちていない，これ奇跡的です。世界各地でこのような国があるでしょうか。世界に誇れる国と思います。さて，もう一度ブラジルで住みたいかと言われますと，“はい”と言ってしまいそうです。不安定で危険，しかしなぜか住みやすい。人が優しいからでしょうか。

で，次の“9”すなわち 69 歳まであと 7 年。先のことはわかりませんが，あと 3 年勤めても，4 年ありますね。もう一度学生でもやってみようかなと思っています。

――まつもと　のりひさ　コマツ　開発本部　フェロー――